

平成24年度 北方四島交流教育関係者・青少年訪問事業（国後島）
～平成24年度 北方四島交流教育関係者・青少年訪問事業を終えて～

川島 夕佳

（富山県射水市立小杉中学校三年）

1. はじめに

私は、この夏に北方四島交流事業で国後島を訪れました。私は以前から、歴史に興味・関心を強く抱いていましたが、この訪問事業に参加する決意をするまでは、領土問題に関して、知識・関心をあまり持っていませんでした。しかし、この交流事業に参加したことによって北方領土問題に対する意識が変わり、強い関心と、数多くの知識を得ることが出来ました。そして、この交流事業で体験してきたことは、これから先の私の人生でも、決して忘れることの無いような貴重な体験となったのです。

2. 今回の交流によって起こったロシア人に対する印象の変化

ロシアと日本の中で戦後67年たった今でも領土問題があることや、私の住んでいる富山県で、ロシア人による犯罪が多発していることで私のロシア人に対する印象はあまり良いものではありませんでした。しかし、国後島訪問の際に、多くのロシア人と交流したことによって、少しずつわたしのロシア人に対する印象が変化したのです。

最初に国後でロシア人の姿を見たのは、エトピリカという、国後島へ向かう際に利用した大型船の上からはしけという船の甲板を見たときでした。船の上には、軍服を着た大勢ロシア人がいたことや、銃を所持している人が居たことや、険しい表情をしていたことから、友好的な印象を持つどころか、恐怖を感じました。また、ロシアの軍人による名簿・証明写真と照らし合わせながらの入域検査が行われ、先ほどの光景を思い出し、安全だとは分かっているにもかかわらず少し緊張しました。ですから、このときには抱いたロシア人に対する印象は、恐怖が大半を占めていました。



【はしけの甲板】

しかし、私達の出会ったロシア人の方の大半が、私達日本人に対して友好的な態度で接してくれました。また、国後島の移動で、ジェイエンさんという方にとってもお世話になりました。何を話せばいい

【ジェイエンさん】



【島の人々】

のか戸惑っていた私たちに、知っている数少ない日本語で「おはようございます」や、「よろしくおねがいします」と、あいさつをしてくださいました。最初は、ぎこちなかったけれど、ジェイエンさんの言葉や、先生の「伝わらなかったとしても、どんどん喋りかけて

みることが大切。」という言葉に励まされ、どんどん喋りかけてみたことで、ジェイエンさんと少しですが心を通わせることが出来たのではないのかと思います。

国後では、上記のように、ジェイエンさんをはじめとする多くのロシア人の方と交流しました。交流を重ねるうちに、私の中のロシア人に対する印象が少しずつ変わり、『日本人がすべて良い人ばかりではないのと同じように悪い人もいるけれど、良い人もいるんだ。』と、思うようになりました。

3. 国後島の施設を見て思ったこと

私は島を訪問する前、新クリル開発計画によって島の開発が進んでいることを知り、『北方領土は、もう返還されることがこの先無いのでは無いのか。』とっていました。

国後島での移動で車を利用した際に、市街地のなかでも舗装されていない所がかなりあることや、山道では土ぼこりが舞って、視界が悪く、危険だということ、まだ開発されていない施設があることなどを知り、思っていたより開発が進んでいないことを知りました。しかし、開発によって南クリル消防署・メンデレエフ空港が新しくなっていたことや、今も、新しい施設を建設していることを知り、また不安を感じました。

4. まとめ

私は、この事業を終えてから、北方領土問題を多くの人に伝える為に、富山県で行われた、北方領土返還要求運動富山県大会に出席して、事業に参加して、知ったこと、考えたことを発表してきました。また、街頭での署名活動で署名を募ったり、自分の通う中学校や、近隣の中学校で発表をしてきたりしました。

今も続いている北方領土問題を解決する為には、多く



【富山県大会での発表】

の人がこの問題について考えることが必要不可欠だと思います。しかし、ほとんどの日本人や、私の住む富山県の方は、北方領土出身者が北海道に続いて二番目に多い県にもかかわらず、関心を持っている人が非常に少ないです。さらに、メディアのほとんどが、北方領土問題に関することをあまり大きく取り上げていません。ですから私はこの問題を出来るだけ多くの人に考え、行動してもらう為に、自分の見てきたこと、知ったことをこれからも出来るだけ多くの人に伝えていこうと思います。

5. あとがき

今回の訪問では、北方領土問題対策委員会の方々、団員の皆さん、現地のロシア人の方々に大変お世話になりました。皆さん、本当にありがとうございました。皆さんのお陰で、たくさんの事を学び、感じる事が出来ました。

もし、これを読んだ方が中高生で、北方領土に行く機会があるのなら、自分の活動を支えてくださっている方がいることに常に感謝し、それを言葉で表していただきたいと思います。

北方に浮かぶあの美しき島々が近い将来返還されることを祈って・・・